

令和2年度 事前評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	主要地方道 和歌山貝塚線 歩道整備事業	
担当部署	都市整備部 交通道路室 道路環境課 交通安全施設グループ（連絡先 06-6944-9283）	
事業箇所	阪南市山中溪	
事業目的	<p>本事業箇所は、通学路であり、JR 山中溪駅前で、道路幅員が狭隘な上、歩道がなく、非常に危険な状況であり、朝夕の通学や、通勤など歩行者等の安全性が懸念される。</p> <p>加えて、山間部の一部区域を府立自然公園区域に指定され、大阪府景観計画において、歴史的街道区域にも指定されており、行楽シーズンには、阪南市営わんぱく王国（公園施設）や、山中溪桜祭り、紀泉アルプスハイキングコースなど多くの観光客が訪れている。</p> <p>そのため、阪南市が、警察や府道路管理者等と連携し策定した「阪南市通学路交通安全プログラム（朝日小学校区域）」に基づき、府が歩道整備事業を行い、歩行者等の安全を確保することを目的に実施する。</p>	
事業内容	<p>歩道整備</p> <p>事業延長：0.20 km</p> <p>（現況）道路幅員：6.5m</p> <p>車道：2車線 [2.75m×2 + 路肩 0.5m×2]</p> <p>（計画）道路幅員：9.5m</p> <p>車道：2車線 [3.0m×2 + 路肩 0.5m×2]、歩道：片側 [2.5m]</p>	
事業費	<p>全体事業費：約 8.4 億円〔国：4.6 億円、府：3.8 億円〕</p> <p>（内訳）調査費等 約 0.5 億円</p> <p>用地費等 約 6.5 億円（JR 施設移設 約 6.0 億円）</p> <p>工事費等 約 1.4 億円</p>	
	<p>【事業費の積算根拠】</p> <p>・事業費は積み上げにより算出</p>	<p>【工事費の内訳】</p> <p>・歩道整備工 約 0.6 億円</p> <p>・擁壁工 約 0.8 億円</p>
事業費の変動要因	<p>・地権者への補償費の算定については、概算額で計上しており、今後の調査により変動する可能性がある。</p>	
維持管理費	約 66 万円／年	
関連事業	—	

2 事業の必要性等に関する視点

上位計画等における位置付け	<p>○大阪府都市整備中期計画（案）（H28.3）</p> <p>○阪南市通学路交通安全プログラム（H27.8）</p>
優先度	<p>本事業は、阪南市通学路交通安全プログラムに基づく、通学路の交通安全対策であり、歩道がなく、JR 山中溪駅前であることから朝夕の通学や通勤、行楽シーズンには、阪南市営わんぱく王国（公園施設）や、山中溪桜祭り、紀泉アルプスハイキングコースなど多くの観光客が訪れるなど、歩行者等が非常に危険な状況であるため、緊急性が高い。</p>
事業を巡る社会経済情勢等	<p>■社会経済情勢等</p> <p><通学路交通安全プログラム></p> <p>H24.4.23：京都府亀岡市で集団登校中の児童ら 10 名が死傷する事故発生。</p> <p>H25.12.6：「通学路交通安全プログラム」の策定に向けた取組みについて文部科学省、国土交通省、警察庁の 3 省庁合同通知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村(教育部局、道路部局など)が主体となりプログラムを策定。 ・関係機関(教育委員会、警察、各道路管理者)と連携した安全対策の実施。 <p>H27.8：阪南市通学路交通安全プログラム策定し、当該箇所を位置付けた。</p> <p><その他></p> <p>H20.10：大阪府景観計画における歴史的街道区域図（重点区域）山中宿地区（阪南市）の指定</p> <p>H23.7：府立自然公園の大阪府立阪南・岬自然公園として、山中溪地区を指定</p> <p>■周辺施設利用状況</p> <p>阪南市営わんぱく王国（公園施設）：来客者数 約 120,000 人/年</p> <p>山中溪桜祭り（毎年 4 月開催）：来場者数 約 10,000 人/日</p> <p>■交通事故発生状況(平成 27 年～令和元年)</p> <p>交通事故件数：2 件（うち死亡事故：0 件）</p>
地元の協力体制等	<ul style="list-style-type: none"> ・阪南市において、当該事業に伴う地元調整等の協力。 ・地元小学校（朝日小学校）などから歩道整備など要望あり。
事業の投資効果<費用便益分析>または<代替指標>	交通安全事業における費用便益分析手法は確立されていない。
事業効果の定性的分析（安全・安心、活力、快適性等の有効性）	<p>【安全・安心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道整備により、歩行者の安全を確保する。 ・通学路であり、児童の安全確保に寄与する。 <p>【活力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが安心して社会参加できる生活空間の形成（バリアフリー化の推進・歩行者交通及び観光地の利便性向上） <p>【快適性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道整備による歩行者の通行利便性の向上 <p>【受益者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路利用者、地域住民

3 事業の進捗の見込みの視点

事業段階ごとの進捗予定と効果	令和3年度～令和4年度：JR施設移設工事（JR委託） 令和5年度：歩道整備工事等
完成予定年度	令和5年度

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

代替手法との比較検討	・歩行者の安全を確保するためには、通行車両と歩行者等を物理的に分離できる歩道整備を行うことが最善策であり代替案はない。
------------	---

5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	・本事業において、新たに自然環境に与える影響は少ない。
その他特記事項	—

6 評価結果

評価結果	○事業実施 <判断の理由> ・本事業箇所は、通学路であるが、歩道がなく、非常に危険な状況であるため、歩道整備を行うことで、歩行者等の安全確保が図られる。 ・阪南市通学路交通安全プログラム（朝日小学校区域）に基づく事業である。 以上の理由から、事業を実施する。
------	---

